

営農再開の動きに合わせ、意欲ある農業者を位置付けた経営再開マスタープラン

ひがしまつしましやもと

(宮城県東松島市矢本地域(H24.2作成・H27.3見直し))

《概要・データ》

地域の特徴	土地利用型農業（主食用米＋転作大豆）のほか、露地野菜（ねぎ、レタス、ほうれんそう等）と施設野菜（きゅうり、トマト、いちご等）も盛んな地域【農家数635戸、農地面積1,976ha】であったが、津波により地域内農地の約半分が冠水被害。除塩が終了した農地から順次営農を再開。
中心経営体	個別経営71、法人経営7
出し手となる農業者	—
農地集積	現状（H27）826.3ha(集積率41.8%)→目標（H31）1399.7ha(集積率70.8%)

《特徴的な取組》

- 被災した農業者のうち、担い手からは営農の継続と規模拡大の意向が示される一方、小規模農家からは農業機械等の再導入が難しいこと等の理由から農地貸付の意向が示されていたため、プラン作成が農地集積の後押しをする形となった。
なお、海岸に近い大曲地区では、平成24年度から約141haの基盤整備事業を実施し、平成28年度に全面積の営農再開を予定している。
- プラン作成については、農地の復旧状況に合わせて、規模拡大の意向のある農業者や補助事業等の活用を目指す農業者を中心経営体に位置づけるよう、継続的に見直している。

《プラン作成・見直しの経緯》

- 平成24年2月プランを作成。
- 平成25年12月プラン見直し。
- 平成27年3月プラン見直し。



震災からの復興のため、基盤整備事業が実施されている矢本地域内の大曲地区ほ場

(東松島市位置図)

